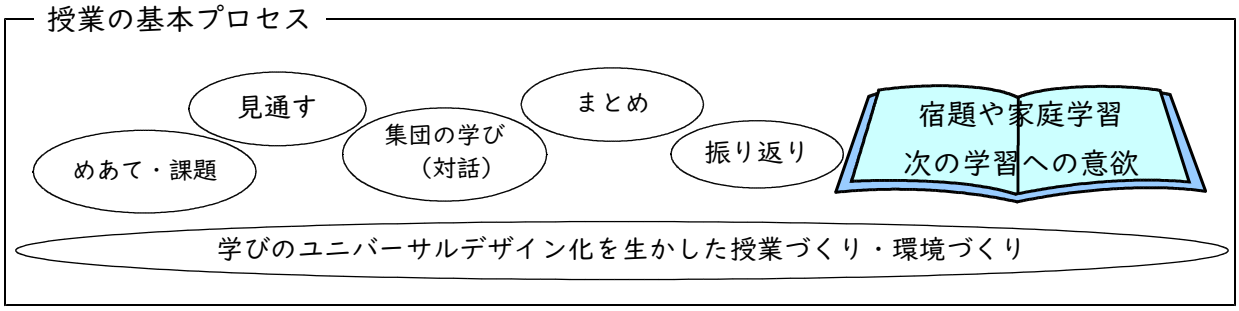
男鹿南中版あきたの探究型授業「男鹿南中スタンダード」



※下線は、学びのユニバーサルデザイン化を生かした授業づくりに関係する部分

○　魅力ある課題の設定と出会わせ方（導入）の工夫

【課題設定・導入】

・めあてと課題（その時間に解決すべき事柄、疑問形）の区別を明確にして示す。

・日常生活との関連性や既習事項を生かした導入の工夫を心掛ける。

・学びの後、どのような生徒の姿を具現化したいのか具体的に考えてめあて・課題を設定する。

・実態や学年に応じて難易度を精選し、生徒が主体的に向き合う価値（学びがい・やりがい）のある題材や課題を選定する。

・生徒の学びの動機付けを行ったり、課題の解決への期待が膨らんだりするような教師の仕掛けを準備する。

【見通す】

・到達すべきゴールをイメージする「結果の見通し」や、ゴールに到達するための手順を把握したり方法や手立てを考えたりする「過程の見通し」など、生徒自身が見通しをもてる場面を設ける。

・教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、課題解決の見通しをもたせるよう手立ての工夫をする。

・どこが分かっていないのか、それではどうしたらよいのかという認知活動を働かせる。

○　積極的に学び合う「集団の学び」の工夫

【集団の学び】

・個の学びと集団の学びを往還しながら、自力解決するための力を身に付ける。

・学び合いの機会を意図的に設けることを通して、間違いや分からないことを認め、受容し合える集団づくりに努める。

【集団形成の目的】

①一般化のため；個人の学習成果を集め、そこから規則性や共通性などを見出す。
②達成感を高めるため；個人の学習成果を発表し合い、相互評価などを行う。
③学習を修正するため；個人の学習の途中結果を発表し合い、相互評価を行う。
④考えを広げるため；共通の課題に対して話し合い、多様な考えにふれる。
⑤考えを深めるため；共通の課題に対して話し合い、自己の考えを深める。
⑥学習支援のため；生徒同士で教え合ったり協力したりしながら課題解決を目指す。

【相手意識・豊かな表現力】

・既習の知識や技能を活用し、相手に合わせて自分の考えや気持ちを分かりやすく伝える場面を意図的に設定する。

・各教科等の特質に応じた言語活動を学習過程に位置付ける。

○　「個」の学びに生かすまとめと振り返りの工夫

【まとめ・振り返り】

・「どのような力が付いたか」「何ができるようになったか」を整理し、着実な定着を図るために、まとめの機会を確実に設定する。

・学習を通して習得した事柄の意味や価値について、他教科や日常生活、夢や目標などとのつながりを意識できるような振り返りの手立てを工夫する。

・自らの学習のあり方を振り返り、自分に合ったよりよい学び方を追究していくことができるような機会を設定する。

【価値付け】

・生徒の学習や活動の様子を見取り、学習改善につなげる評価を継続して行う。

・生徒の頑張りを認め、褒め、自信へとつなげる機会を設定する。

○　生徒を学びの主体や深い学びへと導く教師のコーディネートとファシリテート

【コーディネート：学びの場や教材の選定、授業・単元構成など「学習の枠組」の整備】

・単元全体の中で１時間の授業のねらいや位置付けを明確にする。

・生徒が主役となり活躍できる場面をつくる。

・生徒の思考や学習活動をどの方向にもっていくか、計画的・意図的な発問をする。

【ファシリテート：生徒の思考を広め、深めるための「対話の促進者」としての役割】

・生徒間の発言をつなげながら、思考を広め、深めるための発問や切り返しを行う。

　〇客観性を保つ　　〇意見を深めるような問いかけをする

　〇これまでにない視点を提案する　〇合意形成を促進する　　〇時間の管理

・「間」を大切にする。（１分の沈黙は、２分の問いかけより子どもの思考を促す。）

○　学びのユニバーサルデザイン化を生かした学習環境作り

・本時の学習の流れに見通しをもたせる「５０分ものさし」を活用する。

・めあてや課題は青で、まとめや振り返りは赤で囲むことで学習の流れを一定にする。

・難読漢字がある場合にはふりがなを付ける。

・ヘルプカードを全生徒に配付し、意思表示をしやすい環境をつくる。